

しかはま自然観察会

のらえもん

『人も 自然も みんなともだち !』No.20

代表責任者

古高 利男

☎270-1132

我孫子市湖北台2-14-7

☎090-7275-9890

2014, 3, 1 (土)

第20回活動「サケの放流と春の生き物観察」

1、 日 時：2014年3月1 (土) 午後2:00～

2、 天 気：曇り

3、 場 所：都市農業公園、新芝川

4、 参加者：○家族 6 内訳大人 8

小学生 4

幼 児 3

合 計 15

スタッフ 3

総計 18

○栗原北小2年生の8家族17名と山本先生

合計 18

○おおやたこども園

○しかはまこども園 3月 4 (火) 放流

○千寿小2年 2月28 (金) 放流

5、 放流数：約1500尾

6、 活動の様子

○今年のサケは、大きく育っていました。みなさん、失敗を繰り返しながらだんだんと工夫をこらしてきたことが伺えます。うれしいことです。

ゆうまくんは、大きなサケを大事そうにビンに入れて、持ってきてくれました。きっと、いっぱいかわいがって育ててくれたんですね！

今までの会員の飼育情報を集めると、次のようなことがはっきりしてきました。

- ① 受精卵（イクラとはいわない！！）のときは、暗いところで。明るいところで育てると、発育不良（奇形、グルグル回る、お腹がふさがらない、卵で死亡）が多いようです。紫外線を嫌うようです。
- ② 水温は低くし、水槽の水全体が流れるようにしておく。ときどき、水を換えるとき、流れをつくるような感じでまわす。
- ③ 水槽の下には、砂利や大きめの石を入れ、暗くなる場所をつくっておく。
- ④ 底にゴミがたまってきたら、網で取り除く。
- ⑤ 死んだ卵やカビの生えた卵は、菜箸のようなもので、すぐに取り除く。他の卵に伝染してしまいます。
- ⑥ 受精卵が孵化し始めると、水面に白い泡がたくさん浮いて来ます。この泡は、しっかりと取り除きます。卵の白味の部分がかき回され泡になるようです。そのままにしておくと、水を汚す大きな原因になります。

- ⑦ 水平に泳ぎだしたら、エサを与えます。エサは、すり鉢ですりつぶし、できるだけ小さいエサを与えます。大きいエサだと食べられません。ここまで育ってきたら、もう明るくても大丈夫です。
- ⑧ エサは十分に与え、底に残ったエサは、網ですくいとります。
- ⑨ お腹がふくらんでいると、エサは足りている。へこんでいるとエサ不足。
- ⑩ エサをまくと、飛びついてくると、元気な証拠！
- ⑪ ふたは必ず必要です。飛び出してしまいます。
- ⑫ 体に「パーマーク」という模様がでできます。赤ちゃんの時だけあらわれます。だんだんなくなり、白い体になってきます。そろそろ放流の時です。
- ⑬ 気持ちを込めて、毎日観察してあげることが、元気に育つ一番の栄養です。
- ⑭ 水温や生育の様子などを記録し、写真もとって、観察ノートをつくると、なおいいですね。

○栗原北小の2年生8家族の方々と山本先生は、30分も前に集まって来ていました。そうして、子どもたちは目を輝かせてサケの放流をしてくれました。保護者と先生に見守られながらの放流活動は、子どもたちもサケも元気に育って欲しいという願いが伝わって来るようでした。

のらえもんとしても「サケを育てる活動を続けてきてよかった！」と、背中を強く押される思いでした。ご協力、ありがとうございます。

○ちなみに、この荒川にサケが遡上してきたという正式な記録は「ない！」とのことです。太平洋側の南限は利根川です。ときどき迷い込んで多摩川や荒川にもくるようですが・・・。

今回の受精卵は、茨城県久慈川に遡ってきたサケの卵です。

○サケの放流の後、土手や畑をブラブラ歩いてみました。

「どんな生き物がいるかな？」「どんな花がさいているかな？」「どんな野菜があるかな？」と、たくさんの目で探してみました。

① ホトケノザの赤い花。タネツケバナの白い花。

② 畑に行くと・・・

たくさんのヒヨドリが野菜をついばんでいました。葉を食べられて、小さくなっている野菜がたくさんありました。

③ 梅林のトンネルをくぐると・・・

どの木も、ちょうど花盛りでした。白い梅、赤い梅、ピンクの梅、で花のトンネルをつくって、のらえもんのみんなを待っていてくれました。花びらの臭いがかぐと、赤とピンクは強い香り、白はうすい香りがしました。また、花の蜜を求めて、メジロやシジュウカラが集まっていました。

④ あの黄色い花は・・・

白い木肌の大きな木が、小さな黄色い花をたくさんつけていました。葉はありません。なんの木？と考えると、「サンシュユ」と教えてくれました。見ていると、黄色い花が暖かさを伝えてくれているようです。この木よりもっと早く咲くものに、マンサク（満作）があります。ひも条の花びらで、春を感じさせてくれます。

7, 親と子の、いきいき感想

○わたしのサケが大きくて、うれしかったです。ほう流の時は、自分の名前とお母さんの名前を言いながら5回と、子ども園と言いながら2回やったので、合計7回もやっちゃいました。

サケにがし 川がきたない かわいそう

ウコンの木 さくらがいっぱい さくといい 鹿浜第一小3年

*毎年、放流の時まで、いかに大きく育てるか、工夫するのが楽しくなってきた。 母

○さけのほうりゅうをして、(ぼくが)中1になった時に、どのぐらい大きくなるか楽しみです。

さけにがし またつかまえて またにがす

鹿浜第一小3年

○さけのほうりゅうをして、中1になったときにかえって来るさけが、どのくらい大きいのかたのしみです。らい週のみなかみも、とてもたのしみ!

さけにがし かなしくなつて つかまえる

鹿浜第一小3年

*のらえもんサケ、今年も、子どもたちの手から放流され、元気よく泳いでいました。生命って、すごいなあと思いました。

イクラはね 大事な命 はぐくむよ

母

○さけ、おおきくなったら、おうちにきてね!

さとうようちえん

○自分たちがそだてたさけが、小さくて、ちょっとくやしかったです。つぎは、大きなさけをそだてたいです。

さけちゃん かえってきてね あらかわへ 北鹿浜小2年

○4回目のサケの卵! やっと10匹以上、放流することができました。今回気をつけたことは、日をあてないで温度は低く!! 川底のイメージです。ところで、サケが荒川に戻って来たことは、あるのでしょうか?

しみず保育園

母

*これまでに、放流したサケが戻って来たという情報は「ない」ようです。迷ってきたサケはいるようですが・・・。太平洋側は、利根川が南限です。川から、すぐ海になっているようなところがよさそうだということです。

○今日は、さけのほうりゅうがありました。ほうりゅうする時は、少しかなしかったけど、また帰ってくるので、大じょうぶだと思います。またいきたいです。

うちではね さけをつかまえるの 大変だ 栗原北小5年

上沼田小学校では大きな水槽が2個あり、その中でたくさんのサケが泳いでいます。

毎年、たくさん飼育していただき、のらえもんの放流にご協力いただいています。

子どもたちがサケを観察している様子を、副校長先生が伝えてくれました。

玄関の水槽の中では、元気なサケの赤ちゃんが泳いでいます。

副校長 向山 敦子

12月上旬、今年度も上沼田小学校の玄関にサケの卵が到着しました。卵を手配してくださったのは、本校でもお世話になっている「のらえもん」の古高先生です。

卵からふ化して育っていく様子をみんなで観察しています。水槽の中には、およそ600個近い卵からふ化したサケの赤ちゃんが、すくすくと元気に育っています。3月になり、体長が3センチメートルぐらいになりました。

小さいながらも尾びれを動かし、すいすいと元気に泳ぐ姿からは強い生命力を感じます。

子どもたちは、朝に、帰りにと水槽の中をじっくりみつめています。

もうすぐ、荒川に稚魚を放流しに行く予定です。

今後も元気に育ってほしいですね。